



千葉労働動向

「暗闇のなかの一つの光」

連帯のあいさつより

11・8全国労働者総決起集会

11・8集会に各界から連帯のあいさつが寄せられました。

ここに四氏の発言を紹介します。

(文責日刊編集委員会)

また、このあと国労北海道、九州闘争団より断固闘いぬく決意表明が行われたのははじめ、全国の賛同労組から決意が表明されました。

沖縄県知事選へご支援を



◎名護命を守る会 西川征夫氏

今沖縄は知事選をめぐって非常事態になっています。選挙運動は、名護市民は11カ月で6回目の選挙で、市民投票から40日に1回行動しています。昼夜がなばつています。命を守る会は海上ヘリポート絶対阻止で闘います。自民党は国の力で振興策をやろうとしているが納得はできません。

自民党候補は海上ヘリポート反対と言っているが、陸上の埋め立て案を出している。埋め立てなら沖縄企業も潤うなどと言っている。11・15選挙は絶対に負

けるわけにはいかない。県民だけの力ではどうすることもできません。皆さんの力を貸してほしい。負けることはできません。新たな基地もつくらせない。東京の人も沖縄の知人に声をかけてほしい。地元は一層頑張るので、ぜひご支援を。

闘う労働者とともに組対法と周辺事態法を撃とう



◎日本キリスト教団社会委員長 小田原 紀雄氏

いま国会に上程のままとなっている組織的犯罪対策法との闘い、闘いの内容は皆さん重々承知のこととおもいます。治安が深まる一環として、組対法や破防法の改悪が出されるなかで、いつでも弾圧できる国家体制をつくらうとしている。

皆さんとともに、組対法と周辺事態法を同時に撃つ闘いをつくりだそう。これまで市民運動のなかでやってきて、闘う労働者と結集して政治闘争になることはないのかと不安をもっていました。今回多くの大結集が図

られ新たな闘いが始まろうとしている。

皆さんと手をたずさえて、組

対法を粉砕し、周辺事態法を粉砕する秋から春の闘いを闘いぬいて、来年の秋には今日を倍する広範な結集を共に闘いぬいていきます。

労基法を職場に入れない闘いを



◎学習院大学教授 宮島尚史氏

労基法という重要な法律が解体寸前まで改悪され、来春施行が国会でなされました。労働者派遣法の大改悪が国会に提出され継続になっている。周辺事態法や組対法、派遣法などは一言で言うところの戦前の亡霊を呼び戻すもの。派遣法も強制連行のものになる法律の再来です。これらは皆さんの団結をゆさぶることに共通があります。

労基法を職場に入れない闘いがこれからの本当の闘いになります。職場慣行や契約、就業規則などが労基法により改悪されようとするが、これを職場に入れない闘いを。派遣法は人身売買の法律です、反対するカマエを持つことが大事です。仮に派遣労働者が入ったとしても、労働者同士の共闘、差別をなくする、同じ組合に入れるなど、新しい闘いが必要になります。

新しい労働運動のスタート



◎文芸評論家 中島 誠氏

暗いヤミのなか一つの光がさしている。大ネットワークのスタートです。

百万人署名運動は、80%は労働者の運動になっている。労働運動がなまやさしいなかでこ無

理をお願いしている。署名は46万を超えているが、早急に50万を、さらにガイドライン国会日程時には百万人達成に、新しいスタートを切ろう。

労働運動、労働組合の行く先も大変なところになっている。全電通は解散し、会社ごとの組合となり、電通の旗も歌もなくなっている。旧官公労の中心組合もゆれつつある。こうしたとき、港合同、関西生コン、動労千葉など闘いを続けている組合が集まり、そこに多くの組合が結集した。新しい労働運動のスタートだ。11・8から新しい闘いを始めよう。

新安保ガイドライン・周辺事態法反対 百万人署名運動千葉県連絡会集会開かれる

10/30

10月30日千葉市文化センターで開催された集会には、県内のよびかけ人、賛同人・団体が広く集まり、新ガイドライン関連法案の廃案を誓いあった。とりわけ全運輸の航空管制に携わる労働者の発言にその決意を新たにした。

